

[大神神社(下野総社)(下野市)]見学レポート

おおみわじんじゃ

下野国の総社である大神(おおみわ)神社参道



下野国延喜式内社となっている



大神神社案内図

大神神社

今から1800年前に、大和国三輪山の大神（おおの）神社の分霊を奉祀し建立されたと伝えられ、別名「八島大明神」。境内の池には8つの島があり、八神が祀られています。池からは絶えず水蒸気が立ちのぼり、煙の名所「空の八島」と称され、「兼道に結びつきたるけぶりかな」（松尾芭蕉）をはじめ、多くの歌人に詠まれています。



を奉祀し建
8つの島が
立ちのぼり、
けぶりかな」





碑文

奈良の都で孝謙天皇の御信託が厚かった道鏡禪師は天竺前御まもない西暦七七〇年(室龜元年)下野並師寺の別当として赴任の際この室の八幡神像に久しく佳んだと伝えられている

(室八幡大明神勧進帳にあり)
二〇二〇(平成三十二年)四月七日
道鏡を守る会











前方は「室の八嶋」と言われ、池の中の八つの島にそれぞれ小祠が祀ってある







栃木市指定文化財（指定第三十八号）

下野惣社（室の八嶋）

昭和四十三年二月十六日指定

大神神社は、今から千八百年前、大和の大三輪神社の分霊を奉祀し創立したと伝えられ、祭神は大物主命です。

惣社は、平安時代、国府の長官が下野国中の神々にお参りするために大神神社の地に神々を勧請し祀ったものです。

また、この地は、けぶりたつ「室の八嶋」と呼ばれ、平安時代以来東国の歌枕として都まで聞こえた名所でした。幾多の歌人によつて多くの歌が、残されています。

煙たつ室のやしまにあらぬ身はこがれしことぞくやしかりける
いかでかはおもひありともしらすべきむろのやしまのけぶりならでは
くるる夜は舞士のたく火をそれと見よむろのやしまも宮こならねば
ながむればさびしくもあるか煙たつ室の八嶋の雪の下もえ
東路の室の八嶋の秋のいろそれともわからぬ夕けふりかな
糸邊に結びつきたるけふりかな

大江匡房
藤原美方
藤原元家
藤原実朝
運歌神宗長
松尾芭蕉

栃木市教育委員会

正面が大神神社社殿



下野惣社 (史跡)

惣社明神、室の八幡明神ともいう。下野惣社として知られたもので、祭政一致の時代、毎朝国司があまのりした神であり、それは下野国中に分布する神々にあまのりをするかわりにこの神社に奉幣する。いわゆる惣社の神であつた。ああみわの神は大和の三輪神で、山だのものが御神体として知られている。国司がその神をあむかえし惣社に相殿としてまつたものがいつの間にかこの神の名を以つて、ああみわ神社と唱えられることになつたものです。



拝殿











正面は本殿





濠のような窪みがあった



拝殿から参道方向を見る



神楽殿



神宮/右手は神具庫



右手は社務所か



神庫であろうか



摂津公歌碑



水琴窟



月穂句碑





おおみわ
大神神社

大神神社は、日本最古の神社である奈良県の大三轮神社の分霊を祭るため、建立されたと伝えられている。境内には、下野の名勝地「室の八嶋」があり、元禄2年(1689年)松尾芭蕉はこの地を訪れ、「糸遊に結びつきたるけぶりかな」の句を残している。毎年11月25日の夜には、安産を祈願する「御銚祭」が行なわれる。

環境庁・栃木県

御足ひたし所



芭蕉句碑



奥の細道 (松尾芭蕉著、元禄15年刊)

「室の八嶋」の条、本文

室の八嶋に詣す。同行曾良が曰「此神は木の花さくや姫の神と申て、富士一躰也。無戸室に入て焼給ふちかひのみ中に、火々出見のみこと生れ給ひしより、室の八嶋と申。又煙を讀習し侍るもこの謂也」。将、このしろといふ魚を禁ず。縁起の旨、世に伝ふ事も侍し。

現代訳文

室の八嶋に参詣した。旅を共にした曾良が次ぎのように話してくれた。「この神社の神は木の花さくや姫とって、富士山と同体です。瓊々杵尊の妻となつた木の花さくや姫が一夜の契りて懐妊したのを疑われたので、四面を土でふさぎ、出入り口のない部屋に入り、若し他神の子ならば焼け死んでしまうでしょう。とって火をつけました。火の中に彦火火出見尊を生みました。この子が八嶋の神となりました。(日本書紀・巻第二)。このことから室の八嶋というようになりました。室の八嶋は、古くから“煙り立つ歌枕”として聞こえたところだが、そもそもの原因は木の花さくや姫の故事にありました。」また、このしろ(中型のものはコハダ)という魚を食べることを禁じられている。

芭蕉と室の八嶋

松尾芭蕉は元禄2年(1689)「奥の細道」への旅に出発した。途中、間々田、小山を経て飯塚から左に折れて川を渡り室の八嶋に立ちよつている。その時よんだと云うのが「糸道に結びつきたるけぶりかな」の句である。

むかし このあたりからは不思議なけむりが立ちのぼつていたといわれ、「室の八嶋に立つけぶり」は京の歌人たちにしばしば歌われていた。

モズのはやにえ

モズは百舌ともかき、ものまねをするのかうまい鳥です。このあたりで秋から冬にかけて高い梢にとまってキーンキーンと鋭い声で鳴くのが見られます。モズは、昆虫や蛙、小魚、トカゲなどを樹木の小枝や鉄条網などに突きさしておく習性があります。これを「モズのはやにえ」と呼んでいます。この習性には「冬にためて食物を貯えておくため」とか「自分のなわばりをしめすため」とか、いろいろいわれていますがまだはつきりわかっていません。皆さんも研究してみてくださいか。

さまざまな境内社がある





日本最大の広葉杉

コウヨウザン（広葉杉）は、中国南部原産のスギ科コウヨウザン属の常緑針葉樹である。日本には、江戸時代後期に渡来した。本来、漢字の「杉」は広葉杉のことを指したといわれる。現在でも、中国においては、日本の杉を「柳杉」と呼び広葉杉と分けて呼んでいる。

大神神社境内にある広葉杉は、現在（2010年）大きさは、幹回りは約6.5m、根回り約5.6mある。樹齢は数百年である。

特に、幹回りは、日本最大の広葉杉である。

延喜式内社下野国一之宮 大神神社

参考ホームページ

http://www.genbu.net/data/simotuke/ookami_title.htm

<http://kaguraden.blog11.fc2.com/blog-entry-34.html>

http://www.geocities.jp/flow_and_stock/jisya-kanto/oomiwatochigi.html

